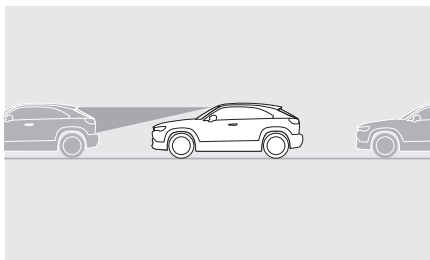


ヒューマンエラーによる事故の回避、被害軽減をサポートする安全技術



前方車・歩行者・自転車を検知する 運転支援機能

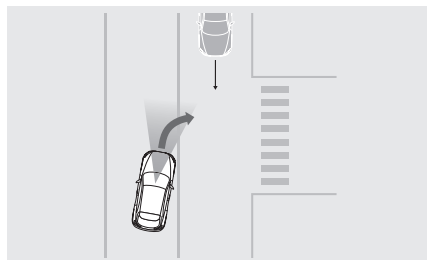
スマート・ブレーキ・サポート

【前方検知機能】(SBS) ※1※2※9

レーダーセンサーおよびカメラが前方車、歩行者（昼間 / 夜間）、自転車（昼間）へ衝突する可能性があると判断したとき、ディスプレイの表示と警報音でドライバーに衝突の危険性を知らせます。衝突を回避できないと判断すると、ブレーキ制御を行うことで衝突時の被害の軽減を図ります。ドライバーがブレーキペダルを踏んだ場合は、ブレーキが素早く確実にかかるようサポートします。

<標準装備>

- 対象が前方車：約4km/h以上
- 対象が歩行者 / 自転車：約10km/h～約80km/h



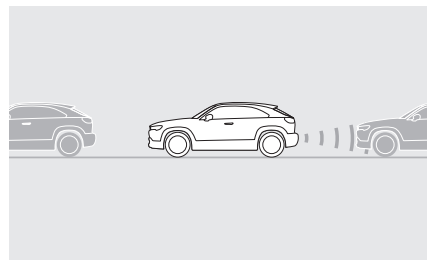
交差点での右折時に対向車を検知する 運転支援機能

スマート・ブレーキ・サポート

【右直事故回避アシスト機能】(SBS) ※1※2※9

約4～20km/hで走行中に交差点で右ウインカーを点けて右折しているとき、自車と対向車との間の中央線を認識している場合、レーダーセンサーおよびカメラで対向車線を直進してくる車両を検知。衝突する可能性があると判断すると、ディスプレイの表示と警報音でドライバーに危険性を通知します。衝突を回避できないと判断した場合、ブレーキ制御を行うことで衝突時の被害の軽減を図ります。

<標準装備>



後進時に車や障害物を検知する 運転支援機能

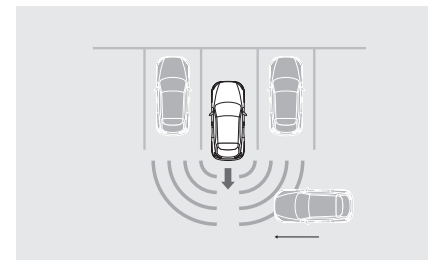
スマート・ブレーキ・サポート

【後方検知機能】(SBS-R) ※2※9

約2～8km/hで後退中に後方の障害物を超音波センサーが検知し、衝突を回避できないと判断したとき、ブレーキ制御によって衝突時の被害の軽減を図ります。

<標準装備>

■ リアパーキングセンサー（センター / コーナー）：リアバンパーの超音波センサーで近距離の静止物を検知し、警告音でドライバーに知らせます。



後進時に左右から接近する車を検知する 運転支援機能

スマート・ブレーキ・サポート

【後進時左右接近物検知機能】(SBS-RC) ※3※9

0～約10km/hで後退中に自車の左右や後方に接近してきた車両を検知。衝突を回避できないと判断したとき、ブレーキ制御を行うことで衝突時の被害の軽減を図ります。

<標準装備>

*イラストは機能説明のイメージです。



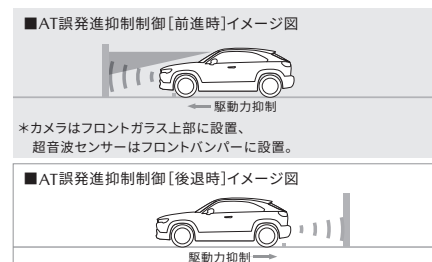
※1 対象物（特殊な外観をした車両、部分的に見えている、隠れている、もしくは背景に溶け込んでいる車両と歩行者など）、天候状況（雨・雪・霧など）、道路状況（カーブが連続する道路、夜間や夕暮れなど視界の悪い時など）などの条件によっては適切に作動しない場合があります。※2 対象物（レーダー波または超音波を反射しにくい形状の車両など）、天候状況（雨・雪・霧など）、道路状況（カーブが多い、坂の繰り返しなど）などの条件によっては適切に作動しない場合があります。※3 天候状況（雨・雪など）、隣接する壁や接近車両の状況などの条件によっては適切に作動しない場合があります。※4 道路状況（急カーブ、急な坂道など）、天候状況（雨・雪・霧など）、障害物の形状（低い・小さい・細いなど）などの条件によっては適切に作動しない場合があります。※5 周囲に光源があるとき（街灯・信号機など）、天候状況（雨・雪・霧など）、道路状況（カーブが多い・起伏が激しいなど）などの条件によっては適切に作動しない場合があります。システムを過信せず、つねに周囲の

安全運転サポート車（サボカーS・ワイド）に該当

経済産業省や国土交通省など普及啓発を推進している、高齢者を含む運転者を先進安全技術で支援し交通事故防止を図る「安全運転サポート車（サボカーS・ワイド）」に該当しています。サボカーS・ワイドは、被害軽減ブレーキ（対歩行者）、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車幅逸脱警報、先進ライトを搭載した車です。

対象車種、サボカーSの区分についてはマツダ公式サイトに掲載しております。上記QRよりご覧ください。

ヒューマンエラーによる事故の回避、被害軽減をサポートする安全技術 / 危険の芽「ヒヤリ・ハット」を減らすための安全技術



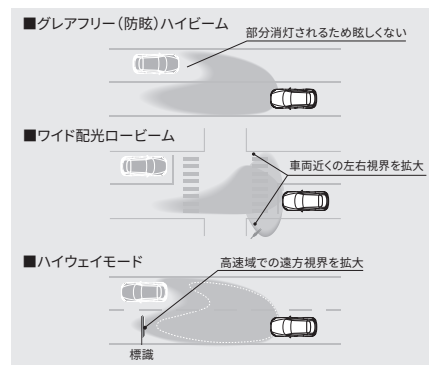
ペダルの誤操作による急発進を抑制する **運転支援機能**

AT 誤発進抑制制御

[前進時 / 後退時] ※2※4※9

徐行中(前進時:約15km/h以下、後退時:約10km/h以下)や停車時、カメラや超音波センサーが前方または後方に車両や壁などの障害物を検知しているにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとき、表示および警報音と同時にモーター出力を抑制。前進時には、衝突を回避できないと判断したとき、ブレーキ制御を行うことで衝突時の被害の軽減を図ります。

<標準装備>



安全運転に必要な視認性を確保する

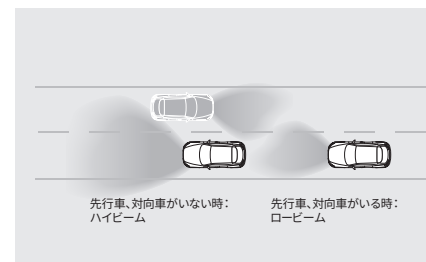
アダプティブ・LED・ヘッドライト(ALH) ※5※9

夜間走行時に先行車や対向車の状況をクルマが判断。ヘッドランプの照射範囲や明るさを自動的に変化させるシステムです。

<対象グレードは主要装備をご確認ください>

- グレアフリー(防眩)ハイビーム: 約30km/h以上で先行車や対向車の状況に応じてハイビームの照射範囲を自動的にコントロール
- ワイド配光ロービーム: 約40km/h以下で車両の左右側方を広く照射
- ハイウェイモード: 約95km/h以上でより遠方を照射

*市街地走行時や外部の照明環境、走行スピードなどにより、機能が一部制限されます。



安全運転に必要な視認性を確保する

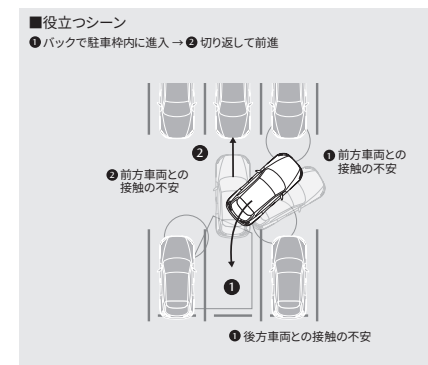
ハイ・ビーム・コントロールシステム

(HBC) ※5※9

夜間走行時に先行車や対向車の状況をクルマが判断。ハイビーム・ロービームを自動的に切り替えるシステムです。

<対象グレードは主要装備をご確認ください>

- ハイビーム: 約30km/h以上で走行中に、前方に先行車や対向車がないとき
- ロービーム: 次の条件のいずれかを満たしている場合に、HBCがヘッドランプを下向き(ロービーム)に切り替えます。
 - ・車速が約20km/h未満のとき
 - ・街灯が並んでいるエリアや路面の明るい街中を走行しているとき
 - ・システムが前方車のランプ類を検知したとき



見えない部分の危険察知をサポートする

360°ビュー・モニター ※6※7※8※9

車両の前後左右にある4つのカメラを活用し、センターディスプレイの表示や各種警報音で低速走行時や駐車時に車両周辺の確認を支援するシステムです。

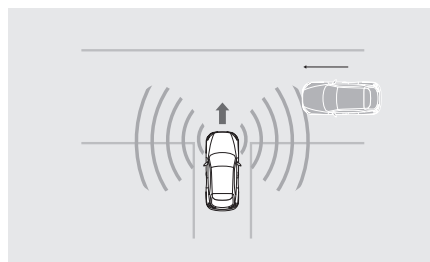
<標準装備>

- トップビュー/フロントビュー/フロントワイドビュー/サイドビュー/リアビュー/リアワイドビュー

*イラストは機能説明のイメージです。

状況に注意して、必要に応じて上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)を切り替えるなど安全運転を心がけてください。※6 天候状況(雨・雪など)、隣接する壁や駐車車両の状態などの条件によっては適切に作動しない場合があります。※7 カメラが映し出す範囲やセンサーの検出範囲は限られています。また夜間や暗い場所など、使用状況により画質が低下する場合があります。画面はイメージで実際とは異なる場合があります。安全のため、モニターの映像を過信せず目視による安全確認を行いながら運転してください。※8 光字式ナンバープレートとの同時装着はできません。車速約15km/hを超えると画面が消える設定としています。※9 SBS、SBS-R、リアパーキングセンサー、SBS-RC、AT誤発進抑制制御、ALH、HBC、360°ビュー・モニターは、ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。●その他、重要な注意事項がございますので、営業スタッフにおたずねいただくか取扱書をご確認ください。

危険の芽「ヒヤリ・ハット」を減らすための安全技術

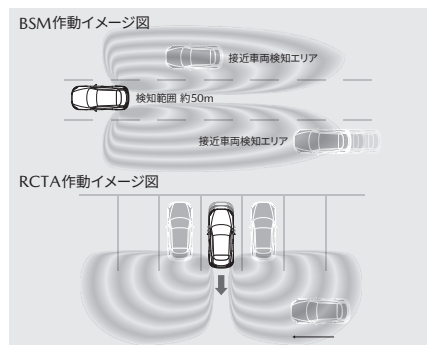


左右前方からの車の接近を通知する
前側方接近車両検知 (FCTA) ※1※6

交差点へ進入しているときに左右前方の死角から接近する車両を検知して、その接近状態に応じて表示を点灯させます。その状態で発進(約10km/h以下)すると表示が点滅。警報音とともにドライバーに危険を知らせます。

<標準装備>

*FCTA: Front Cross Traffic Alert

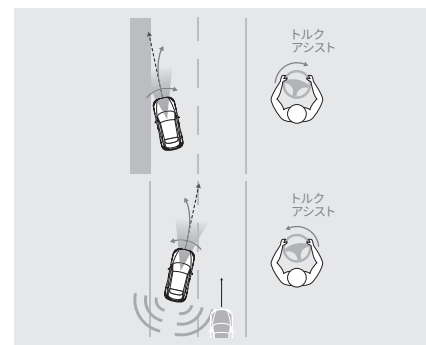


後方からの車の接近を通知する
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) ※2※6
& 後側方接近車両検知 (RCTA) ※1※6

BSMは後方から接近する車両の存在を知らせ、車線変更時の後方確認を支援するシステムです。約15km/h以上で前進しているときに後方からの接近車両を検知すると、接近状態に応じてドアミラー表示を点灯。その状態で点灯した側にウインカー操作すると、点滅表示と警報音でドライバーに危険を知らせます。RCTAは駐車場などから後退するとき、左右後方に接近した車両を検知してドライバーに警告します。

<標準装備> *RCTA: Rear Cross Traffic Alert

● 検知エリア (BSM)：自車の左右に隣接する車線で、自車のフロントドア後端から自車の後方約50mまで

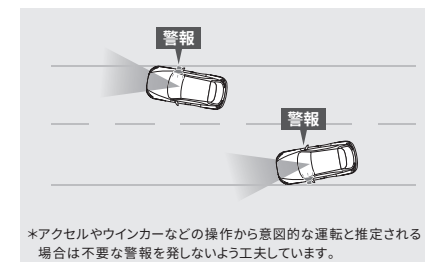


車線からの逸脱回避を支援する **運転支援機能**
緊急時車線維持支援
[側方危険回避アシスト機能 /
ロードキープアシスト機能] (ELK) ※2※3※6

側方危険回避アシスト機能は、車線の白線(黄線)を検知し、かつ後側方から接近する車両との衝突の可能性がある状態で車線変更を行おうとした場合、ドライバーのハンドル操作をアシストして衝突の回避を支援するシステムです。ロードキープアシスト機能はカメラで路肩の芝生や縁石などを検知し、路外へ逸脱する可能性があるとしてシステムが判断するとハンドル操作をアシストします。どちらの機能も約60km/h以上での走行中に作動します。

<標準装備>

*ELK: Emergency Lane Keeping



車線からの逸脱を警告する
車線逸脱警報システム (LDWS) ※3※6

自車が車線から逸脱する可能性があることを知らせるシステムです。約60km/h以上での走行中にカメラが車線の白線(黄線)を検知。自車が車線から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断した場合に、警報によりドライバーに知らせます。

<標準装備>

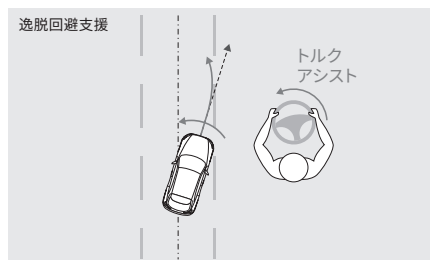
*LDWS: Lane Departure Warning System

*イラストは機能説明のイメージです。



※1 天候状況(雨・雪など)、隣接する壁や駐車車両の状態などの条件によっては適切に作動しない場合があります。※2 天候状況(雨・雪など)、接近車両の状況(自車に接近してこない、速度差がなく長時間並走しているなど)、道路状況(道路幅が極端に広い/狭いなど)などの条件によっては適切に作動しない場合があります。※3 天候状況(雨・雪・霧など)、道路状況(急カーブ・車線幅が極端に広い/狭い・車線の白線(黄線)が見えにくいなど)などの条件によっては適切に作動しない場合があります。※4 対象標識(明るすぎる・暗すぎる・汚れ、雪、木などで隠れているなど)、天候状況(雨・雪・霧など)、道路状況(カーブが連続する道路など)などの条件によっては適切に作動しない場合があります。

危険の芽「ヒヤリ・ハット」を減らすための安全技術 / 運転負荷を軽減する安全技術



車線からの逸脱回避を支援する **運転支援機能**
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) ※3※6
 自車が車線から逸脱する可能性がある、ハンドルの操作をアシストすることにより車線からの逸脱回避を支援するシステムです。約60km/h以上で走行中に車線の白線(黄線)を検知して、自車が車線から逸脱する可能性があるシステムが判断した場合に、電動パワーステアリングを作動させてドライバーのハンドル操作をアシスト。同時にマルチインフォメーションディスプレイとアクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示でドライバーに知らせます。

<標準装備>



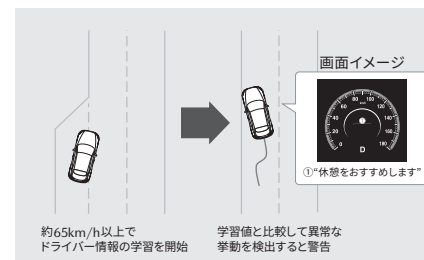
少ない視線移動で表示認識できる
交通標識認識システム (TSR) ※4※6
 走行中にカメラやナビゲーションシステム※7が認識した交通標識を、アクティブ・ドライビング・ディスプレイとメーターに表示することで、交通標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援するシステムです。表示した最高速度標識の速度を超過したときは、表示や警報音でドライバーに知らせます。

<対象グレードは主要装備をご確認ください>

*TSR: Traffic Sign Recognition system

*画像は表示イメージです。実際にはフロントガラスに照射されます。

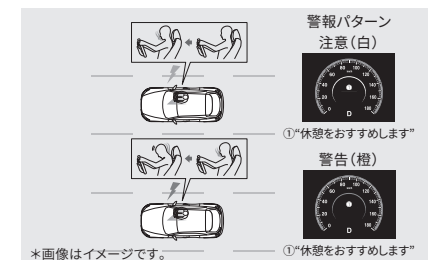
※7 ナビゲーションシステムを機能させるには、別途ショップオプションのナビゲーションシステム用SDカードアドバンスが必要になります。



ドライバーへの休憩をお勧めする
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) ※6

ドライバーの疲労や注意力の低下を検知し、ドライバーに休憩を促すシステムです。車線内を約65km/h以上で走行しているとき、クルマがドライバーの疲労増加や注意力低下を推定。マルチインフォメーションディスプレイの表示と警報音でドライバーへ休憩を促します。

<標準装備>



ドライバーの眠気・わき見を検知する
ドライバー・モニタリング ※5※6

ドライバーの疲労や眠気を検知し、休憩を促すシステムです。約5km/h以上で走行しているとき、ドライバーモニタリングカメラで顔の各部位の特徴点の変化を検出し、ドライバーの疲労や眠気を推定して、マルチインフォメーションディスプレイの表示および警報音でドライバーへ休憩を促します。

<標準装備>

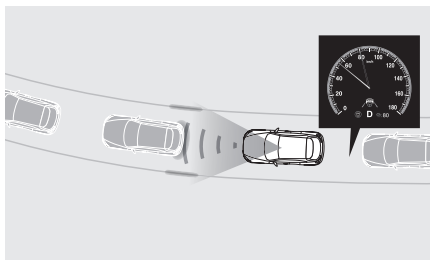
● 警告パターン(注意):
 疲労や眠気を検出した場合

● 警告パターン(警告):
 より強い疲労や眠気を検出した場合

*イラストは機能説明のイメージです。

※5 頻繁に顔の向きを動かす、目や顔の一部が隠れている、光の環境が大きく変化するなどの条件によっては適切に作動しない場合があります。※6 FCTA、BSM、RCTA、ELK、LDWS、LAS、TSR、DAA、ドライバー・モニタリングは、ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。●その他、重要な注意事項がございますので、営業スタッフにおたずねいただくか取扱書をご確認ください。

運転負荷を軽減する安全技術



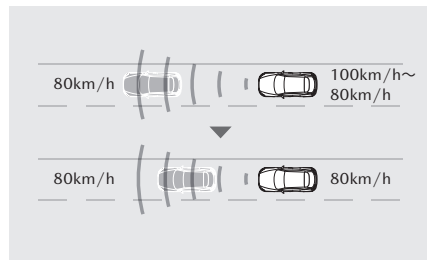
高速道路での渋滞時に
疲労軽減をサポートする **運転支援機能**

クルージング&トラフィック・サポート
(CTS) ※1※2

追従走行機能とステアリングアシスト機能により、高速道路や自動車専用道路の渋滞時に運転疲労の軽減をサポートするシステムです。先行車との車間距離を一定に保つ追従走行に加え、車線を検知している場合はステアリングアシスト機能が車線に沿った走行をアシスト。低速で車線を検知していない場合は、先行車の走行軌跡に沿った走行をアシストします。

<対象グレードは主要装備をご確認ください>

- 追従走行機能：0km/h～高速域まで
- ステアリングアシスト機能：0km/h～高速域まで



車間距離を一定間隔で保つ **運転支援機能**

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール
(MRCC) ※1※2

フロントレーダーセンサーが先行車を検知することで、アクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度での定速走行や、車間距離を一定に保ちながら追従走行ができるシステムです。

<装備全車>

- 全車速追従機能付：0km/h～高速域まで

こちらでマツダ先進安全技術 i-ACTIVSENSE ガイドブックをご覧ください。▶



万が一の事故や衝突による被害を軽減するための技術

キャビンの変形を最小限に抑える

SKYACTIV-VEHICLE ARCHITECTURE

全方位からの衝撃エネルギーを効率的に吸収・分散するフレーム構造を採用。高強度な超高張力鋼板を使った骨格と多方面への環状構造を基本に、衝突時の変形の仕方を最適化するなど、高い衝突安全性能を実現しています。フリースタイルドアを採用するMX-30では、リアドア内部に配置した強固な補強部材をはじめとするさまざまな工夫によって高い衝突安全性能を実現。側面衝突に対しても効率的にエネルギーを吸収・分散し、キャビンの変形を最小限に抑えます。

<標準装備>

衝突時に歩行者の体を守る

歩行者保護

歩行者の頭部を効率的に受け止めてエネルギーを素早く吸収するボンネット構造と、膝周りにかかる力を低減する工夫を取り入れたフロントバンパー構造によって、万一の衝突時に歩行者の被害を軽減します。

<標準装備>

乗員の体をしっかりと受け止める

SRS※3エアバッグシステム 運転席&助手席、
運転席ニーエアバッグ、カーテン&
フロントサイド

SRS※3エアバッグシステムを全車に標準装備。前方からだけでなく、側面からの衝突時にも前後席の乗員への衝撃を軽減します。さらに運転席には、膝周りの傷や体の前方移動を抑えるSRS※3ニーエアバッグを採用しました。

<標準装備>

※3 SRS: Supplemental Restraint System (補助拘束装置) 運転席&助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグは横方向や後方からの衝撃、横転および転覆した場合や正面からの衝撃が小さい場合は作動しません。カーテン&フロントサイドエアバッグは横方向からの衝撃を感じた場合、感知した側が作動しますが、正面や後方からの衝突時や衝撃が小さい場合には作動しません。すべてのSRSエアバッグはシートベルトをしたうえでの補助拘束装置です。シートベルトは必ず装着してください。

乗員を素早く拘束する

高機能シートベルト

運転席・助手席・後席左右には、衝突初期の拘束性を高めるプリテンショナーと、安定した荷重で乗員を拘束するロードリミッターを装備。また、シートベルトの締め忘れを防ぐシートベルトリマインダーを全席に採用しています。

<標準装備>

*イラストは機能説明のイメージです。



※1 対象物（レーダー波または超音波を反射しにくい形状の車両など）、天候状況（雨・雪・霧など）、道路状況（カーブが多い、坂の繰り返しなど）などの条件によっては適切に作動しない場合があります。※2 CTS、MRCCは、ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。●その他、重要な注意事項がございますので、営業スタッフにおたずねいただくか取扱書をご確認ください。